岐阜がつながる 中山道ぎふ17宿

歩き旅

加納宿（かのう）～鵜沼宿（うぬま）

約16.8km

中山道ぎふ17宿とは?

江戸時代に整備された五街道の一つである中山道は、江戸と京都を結ぶ重要な街道で、全長135里32丁（約534km）に69の宿場が置かれました。そのうちの17宿、126.5kmが岐阜県の美濃地方を東西に横断しており、今も往時の面影を色濃く残しています。その土地の歴史や文化、隠れた魅力の発見を楽しむ街道観光は岐阜県の誇るべき観光資源であるとして、平成25年2月に「岐阜の宝もの」に認定されました。

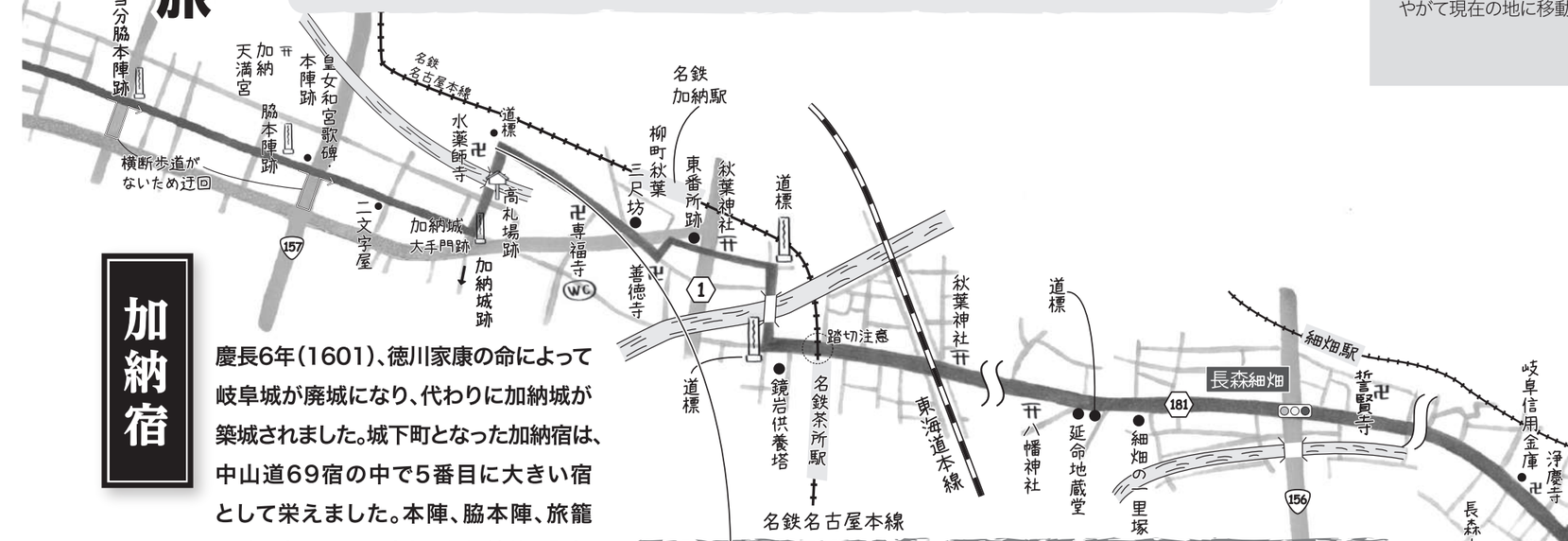
Topics

ねずみ小僧次郎吉の碑

金持ちから盗んで貧乏な人に配る義賊と呼ばれた「ねずみ小僧」の石碑。人気のない森にあったいろは茶屋の主人は、泊まる旅人を殺して金を奪っていました。被害に遭う寸前の娘を、旅の僧に扮したねずみ小僧が助けます。後年、江戸に奉公に出た娘は、ねずみ小僧の正体を知り、処刑されたことを聞いて石碑を建てたとか。昔は中山道沿いに墓と一緒にありましたが、やがて現在の地に移動されました。

加納宿

慶長6年（1601）、徳川家康の命によって岐阜城が廃城になり、代わりに加納城が築城されました。城下町となった加納宿は、中山道69宿の中で5番目に大きい宿として栄えました。本陣、脇本陣、旅籠35軒、人口2,728人という加納藩の記録が残っています。本陣には和宮が降嫁の折に詠んだ歌碑があります。



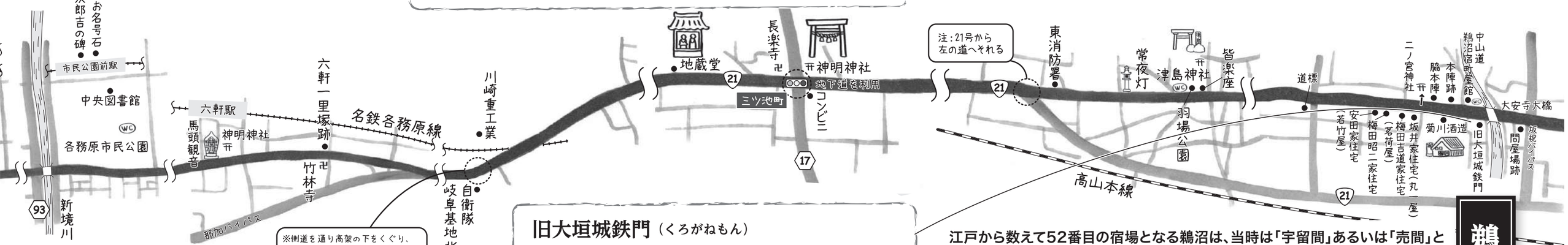
水薬師寺

加納御前と呼ばれた徳川家康の長女・亀姫が、清水川に浮御堂を建立し、清水川で拾われた黄金仏を安置しました。その後、周意禅師が沼を埋め、現在の地に再建したのが水薬師寺です。この黄金仏は女子の加護に御利益があり、「美濃の国の乳薬師」としても有名です。

新加納一里塚

旗本・坪内氏の陣屋を中心に、「間の宿」としてつくられた新加納宿。新加納一里塚には、この新加納立場の成り立ちが街道絵地図とともに紹介されています。

下段へつづく



上段より

※側道を通り高架の下をくぐり、「中山道」のステッカーが貼られた跨線橋の階段をまっすぐ上り、下ります。

旧大垣城鉄門（くろがねもん）

大垣城本丸の表口に建てられていた高麗門形式の鉄門で、市内の旧家に払い下げられた後、各務原市に寄付され、中山道鵜沼宿町屋館の駐車場に移築されました。（各務原市指定文化財）

鵜沼宿

江戸から数えて52番目の宿場となる鵜沼は、当時は「宇留間」あるいは「売間」と書かれていたようです。江戸時代には他の宿と同様に中央に用水が流れていたのですが、今はそれはなく、代わりに家の軒下に用水が涼しげに流れています。近年、脇本陣を復元するなど家並が整備され、昔の街道の趣を醸し出しています。